

1 題材名 曲の気分を感じ取って演奏しよう

2 題材の目標

曲想を感じ取って想像豊かに聴いたり、旋律が重なり合う響きの美しさを感じ取りながら、どのように演奏するかについて自分の思いや意図を深めたりする活動を通して、曲想にふさわしい表現を工夫して音楽を豊かに表現する能力を育てる。

3 題材設定の理由

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領A表現(2)イ、(3)ウを受けて設定した。本題材では、音楽を形づくっている要素のうち、旋律や音の重なりに着目して特徴を感じ取り、その特徴によって生み出される曲想をとらえ、それを生かして音楽を豊かに表現する能力を伸ばすことをねらいとしている。

鑑賞教材として扱う「白鳥」は、チェロの旋律が湖の水面をゆったりと優雅に泳ぐ白鳥の様子を表しており、旋律のなめらかな動きの特徴を感じ取ることができる楽曲である。器楽教材として扱う「オーラ リー」は、なめらかな旋律を特徴としており、その特徴や歌詞、音の重なりから曲想を感じ取ることができる教材である。また、リコーダー二重奏は、美しい高音が特徴的な主な旋律と低音でゆったりとしたリズムの副次的な旋律とを重ね合わせて楽しむことができ、それを取り上げて学習することで、旋律が重なりあう響きの美しさを感じ取りながら、音楽を豊かに表現することにつなげることができる考える。

(2) 児童について

<個人情報保護のため省略>

(3) 指導について

本題材では、旋律の特徴をもとにして曲想を感じ取り、その曲想を生かして表現を工夫する活動につなげられるようにしたい。第一次では、「白鳥」の旋律に合わせて、自作教具を動かしたり感じ取ったことや想像したことについて話し合ったりして旋律の特徴をつかみ、その後、音の重なりや楽曲全体の曲想を感じ取りながら演奏のよさに気付けるようにする。第二次の「オーラ リー」では、鑑賞で得たことをもとにして、曲想を生かして表現を工夫する活動を行う。まず、範奏やCDを聴いたり、歌詞や楽譜を手がかりにしたりして旋律の特徴や音の重なりを感じ取り、曲想をとらえられるようにする。そして、感じ取った曲想にふさわしい演奏をするために、演奏の工夫の仕方について考える。その際、「①思いや意図をもつ(こんなふうには吹きたいな)」→「②演奏する」→「③聴き合う(聴いたことをもとにしてアドバイスし合う)」という手順をくり返し、試行錯誤しながら色々な方法を試して工夫できるようにする。児童が「曲想」と「表現の工夫」とを結びつけながら友だちの演奏を主体的に聴く場を設けることで、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をより深めて、曲想にふさわしい表現の工夫に生かすことができるようにする。

4 学習指導要領とのかかわり

(1) 本題材で指導する事項 A表現(2)器楽イ B鑑賞ウ

(2) 取り扱う主な音楽を形づくっている要素 旋律 音の重なり

5 教材

「白鳥」(サン＝サーンス 作曲)

「オーラ リー」(阪田寛夫 日本語詞/ジョージ プールトン 作曲/長谷部匡俊 編曲)

6 評価規準

(1) 領域・分野と評価の観点との関連

評価の観点 領域・分野	ア) 音楽への関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能	エ) 鑑賞の能力
A・歌唱				
A・器楽	○	○	○	
A・音楽づくり				
B・鑑賞	○			○

(2) 題材の評価規準

ア) 音楽への関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能	エ) 鑑賞の能力
①想像したことや感じ取ったことを動きや言葉などで表して、「白鳥」の特徴や演奏のよさに気付いて聴く学習に進んで取り組もうとしている。(鑑賞ウ) ②それぞれの旋律の特徴を生かしながら、「オーラ リー」の曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する学習に進んで取り組もうとしている。(器楽イ)	①「オーラ リー」の旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をもち、曲想にふさわしい表現を工夫している。(器楽イ)	①それぞれの旋律の特徴を生かして、「オーラ リー」の曲想にふさわしい表現でリコーダーを演奏している。(器楽イ)	①「白鳥」の旋律、音の重なりのかかわり合いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。(鑑賞ウ)

7 指導と評価の計画 (全5時間)

次	時	主な学習活動 (○ねらい ・学習活動)	教材	評価規準と評価の方法
一	1	○「白鳥」のチェロの主な旋律の特徴と、チェロとピアノの2つの楽器の音の重なりを感じ取ることができるようにする。 ・主な旋律を歌ったり口ずさんだり、旋律の音高や動きに着目して自作教具を用いて手の動きで表したりして、主な旋律のなめらかな動きの特徴を感じ取る。 ・チェロの旋律とピアノの旋律に分かれて、音楽を聴きながら2つの楽器の音の重なりを手や体の動きで表す。	白鳥	ア① 行動観察 発言内容
	2	○「白鳥」の始め・中・終わりのチェロとピアノの旋律の特徴やそれらのかかわり合いを聴き取り、様子を思い浮かべながら鑑賞することができるようにする。 ・チェロの旋律とピアノの旋律の特徴やそのかかわり合いについて気付いたことを伝え合う。 ・始め→中→終わりで、作曲者が白鳥のどんな様子を表そうとしていたのかについて、旋律の特徴や楽曲全体の曲想から感じたことをワークシートにまとめる。		エ① 発言内容 ワークシート
二	3	○「オーラ リー」の旋律の特徴や歌詞、音の重なりから曲想を感じ取ることができるようにする。 ・範奏を聴いたり、歌詞から情景を思い浮かべて歌ったり、楽譜を見たりして、旋律の特徴や音の重なりについて気付いたことや感じたことを話し合う。 ・サミングの仕方や低音の息のつかい方などに気を付けながら、主な旋律と副次的な旋律を演奏する。 ・楽曲全体の曲想をもとにして、ペアで曲想にふさわしい表現の工夫について話し合う。	オーラ リー	ア② 発言内容 行動観察
	4 (本時)	○「オーラ リー」をどのように演奏するかについて思いや意図をもち、曲想にふさわしい表現を工夫することができるようにする。 ・ペアで考えた曲想にふさわしい表現の工夫について、グループで演奏を聴き合いながら意見交流をする。 ・代表のペアの演奏を全体場で聴き合い、表現の工夫について共有する。		イ① 発言内容 行動観察 演奏聴取
	5	○「オーラ リー」の曲想にふさわしい表現でリコーダーを演奏することができるようにする。 ・学級全体で二重奏をして、曲想にふさわしい表現の工夫について共有する。 ・ペアで工夫した演奏を発表して聴き合う。		ウ① 演奏聴取

8 本時の学習 (本時 4/5)

(1) ねらい

「オーラ リー」をどのように演奏するかについて思いや意図をもち、曲想にふさわしい表現を工夫することができるようにする。

(2) 展開

学習活動（・予想される児童の反応）	教師の支援	評価規準と評価の方法
<p>1 常時活動をする。 →既習曲をリコーダーで演奏する。</p> <p>2 本時のめあてを確認する</p>	<p>・既習曲をのびのびと演奏することで、楽しい雰囲気づくりをする。きれいな音色で演奏するために、「タンギング」「息の強さ」「音の長さ」について助言する。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">曲の気分に合ったふき方をくふうしよう！</div>		
<p>3 歌詞を付けて「オーラリー」を歌う。(♥)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりとした気分を表すために、なるべく音をつなげてなめらかに吹きたい。 ・やさしい感じを表すために、出だしは音を弱めにして音色に気を付けて吹きたい。 ・3段目の「オーラリーオーラリー」は、呼びかけるように少し強めに吹きたい。 	<p>・数名のペアが「どんな気分に合わせて、どのように工夫したいか」という思いを発表して、曲想にふさわしい演奏の仕方を意識しながら歌うことができるようにする。</p>	
<p>4 グループで曲の気分に合った表現の工夫について考える。(★)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3段目の「オーラリーオーラリー」は、呼びかけるようになるべく音をつないで少し強めに吹きたい。 ・2人の音の強さをそろえて、上のパートと下のパートがずれないように美しく吹きたい。 ・ゆったりとした気分の曲だから、歌うようにやさしい音色で吹きたい。 	<p>・演奏するペアと聴くペアの4人1組のグループを作り、演奏する児童が、「表したい曲想とそれを表現するための工夫」について伝えてから演奏を始めることで、聴く側の児童が「その思いが実現できているか」という視点で聴けるようにする。</p>	<p>イ①</p> <p>発言内容 行動観察 演奏聴取</p>
<p>5 ペアの演奏を全体の場で発表する。(♥)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の様子に合った強弱を付けると、様子がよく伝わる。 ・2人の音色を合わせると、とてもすてきに聴こえる。 ・フレーズの終わりを弱く吹くと、やさしい感じがするな。 	<p>・代表のペアの演奏を全体で聴く時間を設けることで、自分と同じ考えを見付けたり、新しい考えに気付いたりすることができるようにし、表現の工夫を全体で共有する。</p>	
<p>6 もう一度、ペアで曲の気分に合った演奏の仕方の工夫について考える。(★)</p>	<p>・「この曲の『こだわりポイント』を見つけて、さらに工夫してみよう。」と促し、旋律の特徴的な部分に注目して、より曲想を感じながら工夫することができるようにする。</p>	
<p>7 本時の学習のふり返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上のパートと下のパートの音色や音の強さをそろえると、やさしい気分を表せた。 ・音を少し弱くしたり強くしたりして、工夫するだけで、歌詞の様子が表せることが分かった。 ・ずっとなめらかな旋律だから、息を長くして音をつなぐと、曲の気分に合うな。 	<p>・本時の学習で見つけた「表現の工夫」と「楽曲全体の曲想」を結び付けて、演奏の仕方を工夫することで楽曲の曲想をより表現することができることを確認する。</p>	
<p>8 ピアノ伴奏に合わせて学級全体で二部合奏をする。</p>	<p>・ピアノ伴奏にのってリコーダーの旋律を奏でることで、曲の気分をより感じるができる場を設定し、次時の学習につなげられるようにする。</p>	

(3) 予想される児童の具体的な姿

【音楽表現の創意工夫】イ①

「オーラリー」の旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をもち、曲想にふさわしい表現を工夫している。

<p>十分満足できると判断される 児童の姿の具体例</p>	<p>「旋律の特徴」や「音の重なり」をもとにして、楽曲全体の曲想に合った演奏をどのようにするかについて自分の思いや意図をもち、さらに特徴的な部分（歌詞が表す様子、旋律や音の重なりが特徴的な部分）に着目してリコーダーの表現を工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3段目の「オーラリー オーラリー」は、呼びかけるように上のパートも下のパートも少し強めに吹きたい。 ・ 4段目の「水の精たち」は曲の山の部分だから、音をぴったり合わせて吹きたい。 ・ 最後の「姿見せて」は、上のパートと下のパートのリズムがずれないように吹いて、美しく終わりたい。
<p>おおむね満足できると判断される 児童の姿の具体例</p>	<p>「旋律の特徴」や「音の重なり」をもとにして、楽曲全体の曲想に合った演奏をどのようにするかについて自分の思いや意図をもってリコーダーの表現を工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゆったりとした旋律を表すために、一つ一つの音を滑らかにつなげて吹きたい。 ・ 曲の気分に応じた美しさを出すために、二重奏をする二人のリコーダーの音色や強さを合わせたい。 ・ 主旋律の上のパートを少し強めに吹いて、下のパートは少し弱めに吹いて、上のパートが歌うように演奏して目立つようにしたい。
<p>努力を要すると判断される 児童の姿の具体例と支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想にふさわしい演奏の仕方の工夫が分からない。 <p>→友だちの演奏やアドバイスを聴くことを促したり、感じ取った曲想を確認して演奏の工夫をいっしょに考えたりする。</p>

8. 研究の視点

本校研究仮説1：主体的に聴くこと ・ 本校研究仮説2：学び合い

- 代表のペアの演奏を全体の場で聴く時間を適宜設け、演奏を聴いて感じたことをもとにして曲想に合った表現の工夫について全体で共有したことは、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をより深めるために有効であったか。
- 演奏するペアの児童が「表したい曲想とそれを表現するための工夫」を伝えてから演奏を始め、聴く側のもう一方のペアの児童が「その思いが実現できているか」という視点で聴くようにしたことは、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をより深め、表現の工夫に生かすために有効であったか。

本校研究仮説3：[共通事項]

- 「旋律」に加えて「音の重なり」を手がかりとして二重奏を取り上げて学習を進めたことは、曲想を感じ取るために有効であったか。